

TANIUCHI

EXHIBITION

ROKURO



谷内六郎展

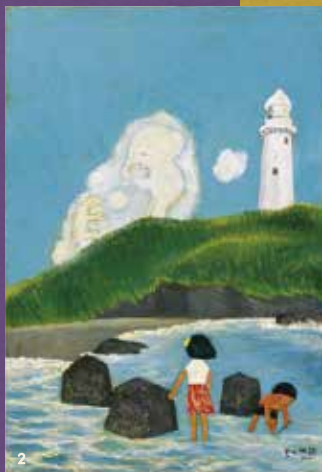
— 昭和ノスタルジーの世界へ —

《ミシンの音》『週刊新潮』1963(昭和38)年7月8日号表紙絵原画 横須賀美術館蔵 ©Michiko Taniuchi

2025.4.19[土] → 6.15[日] 開館時間 午前9時30分 → 午後5時 ※入館は午後4時30分まで

休館日：月曜日(5月5日(月)は祝日のため開館)、5月7日(水) 観覧料：一般1,200(1,000)円、大高生600(500)円、中学生以下無料 ()内は20名以上の団体料金
無料日：6月14日(土)、6月15日(日・県民の日) 主催：栃木県立美術館 協力：横須賀美術館 後援：朝日新聞宇都宮総局、宇都宮コミュニティFM ミヤラジ、
NHK宇都宮放送局、株式会社エフエム栃木、下野新聞社、東京新聞宇都宮支局、株式会社とちぎテレビ、株式会社栃木放送、毎日新聞宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

栃木県立美術館
Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts



海や川で遊んだ夏休み、寒くてもどこか暖かい雪景色、家族との思い出、町や森で見かけた不思議なもの。柔らかあたたかな風景の中に生きる子どもたちの日々は、ちいさなドキドキやワクワクにあふれていました。谷内六郎は、昭和という時代に生きた子どもたちの生活や社会の変化を独自のタッチで表現した画家です。六郎は、『週刊新潮』の表紙絵を1956(昭和31)年の創刊号から描きはじめ、1981(昭和56)年に亡くなるまでの26年の長きにわたり、あたたかく優しいイラストを描き続けました。本展では、六郎がアトリエを構えた神奈川県横須賀市に立つ横須賀美術館が所蔵する多数の作品の中から厳選した『週刊新潮』表紙絵の原画約120点に加え、小説の装丁や絵本の挿絵の原画などを展示し、昭和の生活を色濃く表した六郎のノスタルジーの世界へいざないます。

【関連イベント】

谷内広美氏による スペシャルギャラリートーク

谷内六郎の長女・広美氏に父・六郎との思い出や作品について語っていただきます。

◆ 期日：4月19日(土) 午後1時30分～

◆ 集合場所：企画展示室入口

※申込不要。当日の企画展観覧券が必要。

担当学芸員によるギャラリートーク

◆ 期日：4月27日(日)、5月18日(日)、6月1日(日)
各回とも午後2時～(1時間程度)

◆ 集合場所：企画展示室入口

※申込不要。当日の企画展観覧券が必要。

【同時開催】

コレクション展Ⅰ
見て、聞いて、美術館

◆ 期日：2025年4月19日(土)～6月15日(日)

【宇都宮美術館のご案内】

まど・みちおのうちゅう
—うちゅうの あんなに とおい あそこに さわる—

◆ 期日：2025年4月27日(日)～6月29日(日)

※詳細は宇都宮美術館へお問い合わせください。TEL 028-643-0100

『週刊新潮』表紙絵原画

すべて横須賀美術館蔵、日付は表紙掲載号発行日

©Michiko Taniuchi

1. 《虫の劇場》1957(昭和32)年7月8日
2. 《雲の物語》1960(昭和35)年8月1日
3. 《太鼓の音はおなかにひびく》1960(昭和35)年9月12日
4. 《お父さんおかえり》1956(昭和31)年10月8日
5. 《ほたる》1959(昭和34)年7月6日
6. 《象のいる山》1977(昭和52)年2月3日
7. 《夜の公衆電話》1959(昭和34)年11月16日
8. 《傘の穴は一番星》1961(昭和36)年5月22日



【交通案内】

○電車・バス

- ・JR東京駅から東北新幹線にて約50分
- ・JR宇都宮駅(西口6番・7番バス乗場)、東武宇都宮駅から「関東バス作新学院・駒生行き」にて「秘通十文字」バス停下車 徒歩5分

○自家用車

- ・東北自動車道鹿沼ICより約10km、約20分
- ・北関東自動車道壬生ICより約13km、約25分

栃木県立美術館

Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts

〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7
TEL 028-621-3566
<https://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

